

職員調査 集計結果

京都市御室児童館

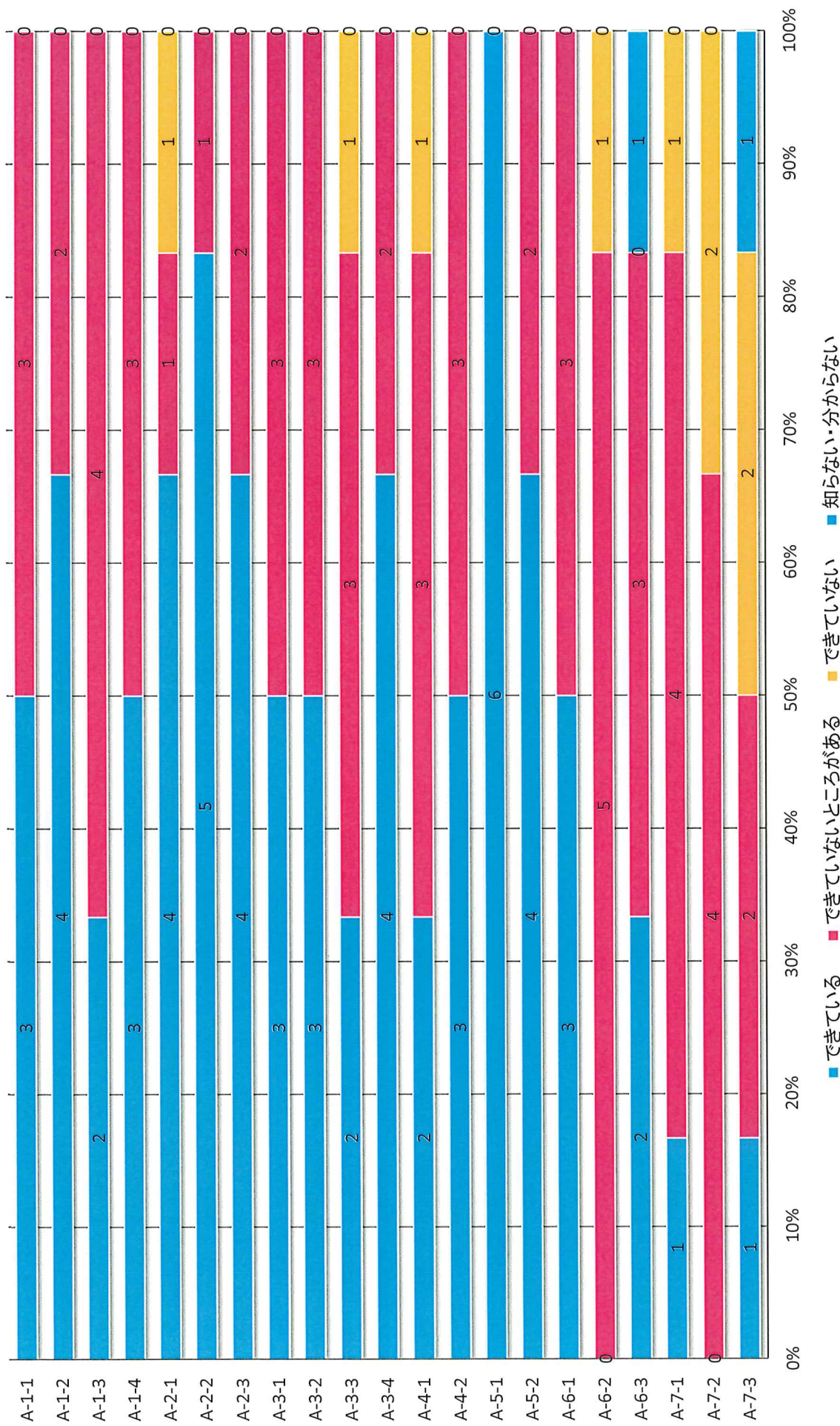
調査期間：2019年4月25日～5月15日

回答数：6名

一般財団法人 児童健全育成推進財団 第三者評価室

評価項目		標準項目	評価(4段階のうちどれか1つに○)			
			できている	できていないところがある	できていない	知らない・分からない
A-1	遊びの環境整備を行っている	1. 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	3	3	0	0
		2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	4	2	0	0
		3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	2	4	0	0
		4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	3	3	0	0
A-2	乳幼児と保護者への対応を行っている	1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している	4	1	1	0
		2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	5	1	0	0
		3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	4	2	0	0
A-3	小学生への対応を行っている	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	3	3	0	0
		2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	3	3	0	0
		3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	2	3	1	0
		4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	4	2	0	0
A-4	中学生・高校生世代への対応を行っている	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	2	3	1	0
		2. 中学生・高校生世代の子どもが自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	3	3	0	0
A-5	子どもの権利を尊重した支援を行っている	1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	6	0	0	0
		2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	4	2	0	0
A-6	配慮を要する児童・家庭への支援を行っている	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	3	3	0	0
		2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	0	5	1	0
		3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	2	3	0	1
A-7	地域の児童の育成環境づくりを行っている	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	1	4	1	0
		2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	0	4	2	0
		3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	1	2	2	1

京都市御室児童館 職員調査 選択項目



評価項目	自由記述
A-1 遊びの環境整備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶ環境は整備されてきているが、守るべき事項に関しては、職員によって少し対応が違うことがあり、子どもたちも困っている時がある。 ・乳幼児から中高生までの児童が日常的に利用しているが、活動によって、十分な広さが保障されていないため、活動の制限を行っている。活動によって物を移動させたり、レイアウトで工夫している。 ・子ども達の要望から厳選して、みんなで楽しめるカードゲームやボードゲームを取り入れている。 ・児童館内にあるおもちゃをメニュー表にして、子ども達が手にとりやすいように工夫している。ただ、施設が狭いため、子ども達が思いっきり身体を動かして遊べる場が少なく、限られた場所しか利用できないことがある。 ・施設内の部屋が大きくなく、部屋数も少ないので子ども的人数が多く、いっぱいになり、1人あたりの面積(居場所)が小さくなる。スペースがなくなる。廊下の一部等を利用したり、工夫しているが館自体が小さいので、いたしかたないと思うが、もう少し広く部屋数も欲しいところである。 ・遊びのルールやおもちゃの使い方、部屋での注意事項等は表示物を通して周知している。
A-2 乳幼児と保護者への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のクラブは実施しているが、クラブ以外の日に利用する人は少ない状況。利用者のニーズをしっかりと調査していく必要がある。 ・乳幼児が興味をもって楽しめる質の良い玩具を用意し、衛生面においても定期的に洗っている。子育てが楽しめるように、保護者が企画するクラブを設けている。そこで保護者同士の繋がりが広がっている。 ・乳幼児クラブや広場に参加している親子同士との関係が深まるように、会食を開いたり、ランチタイム時にも話をしたりすることが多い。職員全体がフレンドリーに話している。 ・乳幼児と保護者、又保護者間同士は日常的に利用され、交流もあると思う。ただ、その人数が多くないので、もっと利用できる、交流ができるように発信していく必要はあると感じている。 ・乳幼児親子対象のクラブや講座等のイベントを通して、定期的な参加とコミュニケーションが取れていると思う。
A-3 小学生への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に一人ひとりの子ども達が楽しく過ごせる環境があり、子ども達の意見を取り入れた企画等も実施している。今後も子ども達と話し合いながら企画を作っていきたい。 ・職員数が少なく、障がいのある児童への配慮や、児童の状態や心理を考慮しての対応は、行き届いていないように感じる。不登校の児童が継続的に来館し、利用している。児童館ならではの役割を感じている。 ・来館児童に対して、集団あそび(学童)と一緒にしようと呼びかけて、一緒に遊んでいることが多い。一人でポツリとやってきた小学生に対しても、話しかけて、一緒に遊ぶ。 ・小学生といっても1年～6年と、成長年齢が幅広いので、各々の年齢層に向けた(合った)取り組みがもっと必要だと思っている。特に低学年は個人差もあり、細やかな対応をするには、職員的人数が現状では少ないように思う。障がい児への対応でも同様のことが言える。職員数(常勤、非常勤)やボランティアの人数増加を望む。 ・児童館事業、学童クラブ事業双方において、子ども達への対応は適切に行えていると思う。しかし、障がいについて積極的に理解を深めるような取り組みは行えていない。
A-4 中学生・高校生世代への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、中高生の取り組みを実施しているが、日常的な利用につながっていないため、考え直す必要がある。 ・中高生会を月1回行い、12月にはクリスマス会や、乳幼児との交流企画「キャロリング隊」で、ハンドベルやウクレレの伴奏等を行っている。 ・月に1度、中高生会を行っている。小学生の時に利用していた子ども達が定期的に遊びにくる。テスト期間の勉強をしにくる子もいる。中学生とおしゃべりしたり、赤ちゃんとのふれあい事業に誘ったりすること多い。 ・各々、企画を考えて取り組んでいると思う。学校の勉強・部活・塾・習い事等々に忙しい中・高生がもっと日常的に館を利用してもらえるように(気軽に)するにはどうしたら良いか?考えていきたい。 ・毎月中高生会という取り組みを行っており、中高生のやりたいことをやって楽しむ時間としている。
A-5 子どもの権利を尊重した支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の意見を取り入れた企画等を実施できている。 ・子どもからの意見をあげる「意見箱」を設置し、日頃の活動や環境づくりに反映させている。 ・子ども達のあそびの種類が増えるように、集団あそびをよくしている。第31条に則った活動を積極的に行おうと努力している。子ども達の思いや要望が別のかたちでも聞きとれるよう意見ボックスがある。投稿者が多く、子ども達も、職員からの返事を楽しみにしている様子。 ・子どもが意見を述べる機会については、日常的に「意見箱」が設置されており、様々な意見や思いを主張できていると思う。職員数が少なく、仕事量が多いので、対応をもっと手厚くしたいがなかなかできずもどかしいと思う。 ・「意見箱」を設置し、随時、子ども達の意見・要望を受付けている。

評価項目	自由記述
<p>A-6 配慮を要する児童・家庭への支援を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある児童への対応については、人手不足等もあり、上手くできていないことがある。特に集団での取り組み時には、集団の中にその子たちを入れることができていないこともある。 ・家庭の事情にもよるが、できる限り対応しているように思う。聴覚障害をもつ子への配慮や支援が不十分。手話のコミュニケーションが不足している。 ・積極的には言えないが、経済的に困難のある家庭や子育てに困難を抱えている家庭の保護者とは、よく話をしている。相談にのっている。 ・聴覚障害児への対応(手話通訳)が滞っている。人員を捜している(募集している)とのことだが、なかなか人が来ない。行政や福祉関係の所と連携が必要かもしれないと思う。保護者からの相談等については、職員皆誠実に対応できていると思う。 ・障がいのある子への支援策が人的な体制面も含め、密に取り組めていない現状がある。虐待については地域的にも今まであまり相談を受けておらず、実績は無い。ただ、最低限の連絡体制はあると思う。
<p>A-7 地域の児童の育成環境づくりを行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域については、職員が知らないことが多く、館長任せになっている。地域との関係づくりを今後考えていく必要がある。 ・民生委員との共催企画を通して、顔と顔のつながりが広がってきている。 ・地域との連携は、まだまだ薄いように感じる。少しずつ民生委員との関わりを深め、環境づくりを整えようとしているように思う。 ・児童館、学童保育に関わっている関係者や保護者とは、地域的に取り組んでいると思うが、地域住民(お年寄り世帯、子どもと日頃接していない方々)を巻きこんでの児童の育成環境づくりには、もっと館と地域の協力体制が必要だと考える。地域社会、みんなで子どもを育てるという気持ちが欲しいと思う。 ・保育園や民生委員等、地域の社会資源と連携しながら取り組みを行ったり、子ども達の安全を守るため、帰宅指導を行う等しているが、頻度としては、それ程多くないかもしれない。